



7.環境研究

環境先進大学、地域の環境研究拠点としての環境研究の推進

平成25年度には361件の研究課題が文部科学省科学研究費助成事業として採択されています。また、リサーチセンターには19研究主題が登録されており、人文社会系、理工系、医学系の環境研究が産学官民との連携により積極的に推進されています。先進的環境研究の拠点（プラットフォーム）となっている環境研究について紹介します。

国際環境教育研究センター（GECER）中心の文理融合型研究

国際環境教育研究センター／センター長：朴 恵淑（理事・副学長）

部門長：山村直紀（工学部准教授）、金子 聡（工学部教授）、坂内正明（地域イノベーション学研究科教授）、谷口智雅（人文学部特任教授）、若林哲史（工学部准教授）、石川知明（生物資源学部教授）

国際環境教育研究センターがもつ三重大学ブランド力を、新たな環境研究分野への拡大とその役割

国際環境教育研究センターでは、これまで環境マネジメントシステム運用の中で培った三重大学ブランドの環境活動として、「環境人財育成プログラム」、「3R活動」、「MIEUポイント」と数多くの実績があります。これらは本学キャンパスを活動範囲とすることが多く、対象者を三重

大学生、教職員として行っていました。

平成25年度は、亀山市を拡大のモデル地域の1つとして、三重大学リサーチセンターの地域ECOシステム研究センターとも連携しながら「亀山学」の構想をリサーチしました。

国際環境教育研究センターを介した、文理融合型の研究

学長のリーダーシップの下、環境管理と保全事業を統合・発展させた国際環境教育研究の拠点で、本学リサーチセンターとの連携と強化を併せて実施し、国際環境研究と環境教育を充実させます。

平成25年度は、学内で実施する「スマートキャンパス」と「MIEUポイント」のエネルギーの可視化による節電取

り組みをさらに継続しながら、活動に必要な制度設計などを学外地域に展開しました。国際環境教育研究センターのセンター構成員である各学部の教授などが、亀山市との打合せ協議を重ねて三重大学モデルを地域モデルに発展させる研究を実施し「亀山モデル」ができました。

（P24.オール亀山ポイントへモデル展開）

地域ECOシステム研究センターの研究

地域ECOシステム研究センターは、低炭素社会の実現に向けた地域社会的行動転換の研究と教育機関としての環境人財養成プログラムの開発を行う「地域ECOシステム研究開発」並びに、本学が「環境先進大学」の旗印ともなったISO14001環境マネジメントシステムを活かし、三重県内の行政や企業の環境マネジメントの支援や、総合的な地域づくりの視点から地場製品のECO化、ECO活動デザインを研究する「地域ECOマネジメントデザイン研究開発」の二本柱で、総合大学である本学の利点を活かし、持続可能な地域開発の創造のため分野横断的研究拠点を目指しています。

平成25年度は、亀山市をモデル地域とした、地域ECOシステム研究開発に注力し「亀山学」の構想をリサーチしました。



【地域ECOシステム研究センター概要】